

# 重層的支援体制整備事業 の取り組みについて

京田辺市 健康福祉部 社会福祉課

# 京田辺市の地域福祉をめぐる課題

第4期京田辺市地域福祉計画より抜粋

## ●市民や団体の地域参画や地域内交流の活性化

若い世代を中心に地域参画ができない現状の一方で地域での交流や支え合いは欠かすことができないという意識の醸成はみられる。

→活動したい人が活躍できる場づくり、就労や社会参加の機会の提供など、  
**年齢や属性にとらわれない社会参加支援の仕組みが必要！**

## ●地域福祉のネットワーク構築・関係機関の連携強化

身近な相談窓口や安心して在宅生活が送れるサービスの充実を希望する割合が高い。また、閉じこもりや社会的孤立を懸念する割合も高い。

→**世代を問わず、相互に支え合える仕組みが必要！**

## ●住民主体の住み良い地域づくり

住み慣れた地域で安心した暮らしの継続のために、災害時の備えや地域の安全の確保、各サービスの充実などが求められている。

→**自助共助公助それぞれに生活を支える仕組みが必要！**

# 福祉支援の現場における課題

## 制度・サービスで解決できない「はざま」の課題

- ◇ 制度やサービスの対象でない、支援のつなぎ先がない  
支援対象から外れたり、相談があっても制度やサービスが使えず支援が継続されていない
- ◇ 制度の縦割りで必要な支援が届きにくい
- ◇ 複雑・複合的な課題

### ～事例～

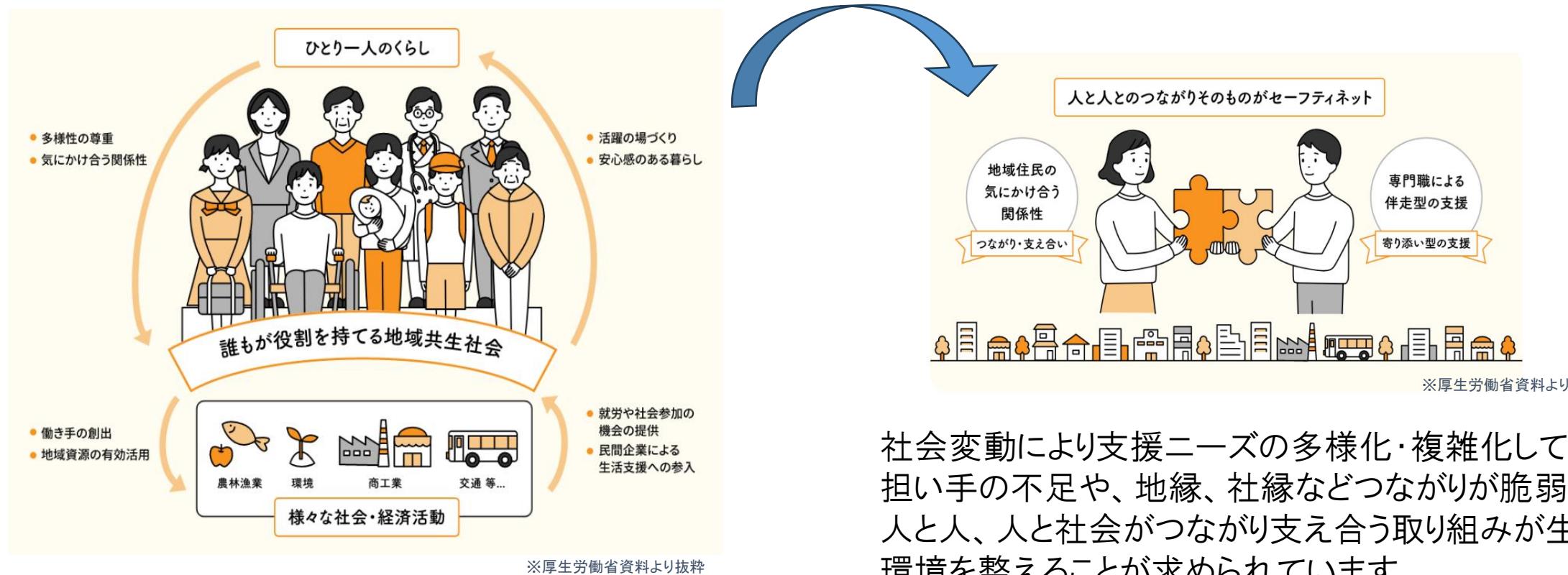
- 周辺が大変困っているが、本人に困り感がなく介入できない。
  - 発達障がいの疑いなど、確定の診断がなく利用できるサービスがない。
  - 問題が複雑化して混乱している。
  - 8050問題
  - ひきこもり・不登校
  - ダブルケア・ヤングケアラー
- などなど

1つの窓口では  
解決しづらい相談が  
増えてきている

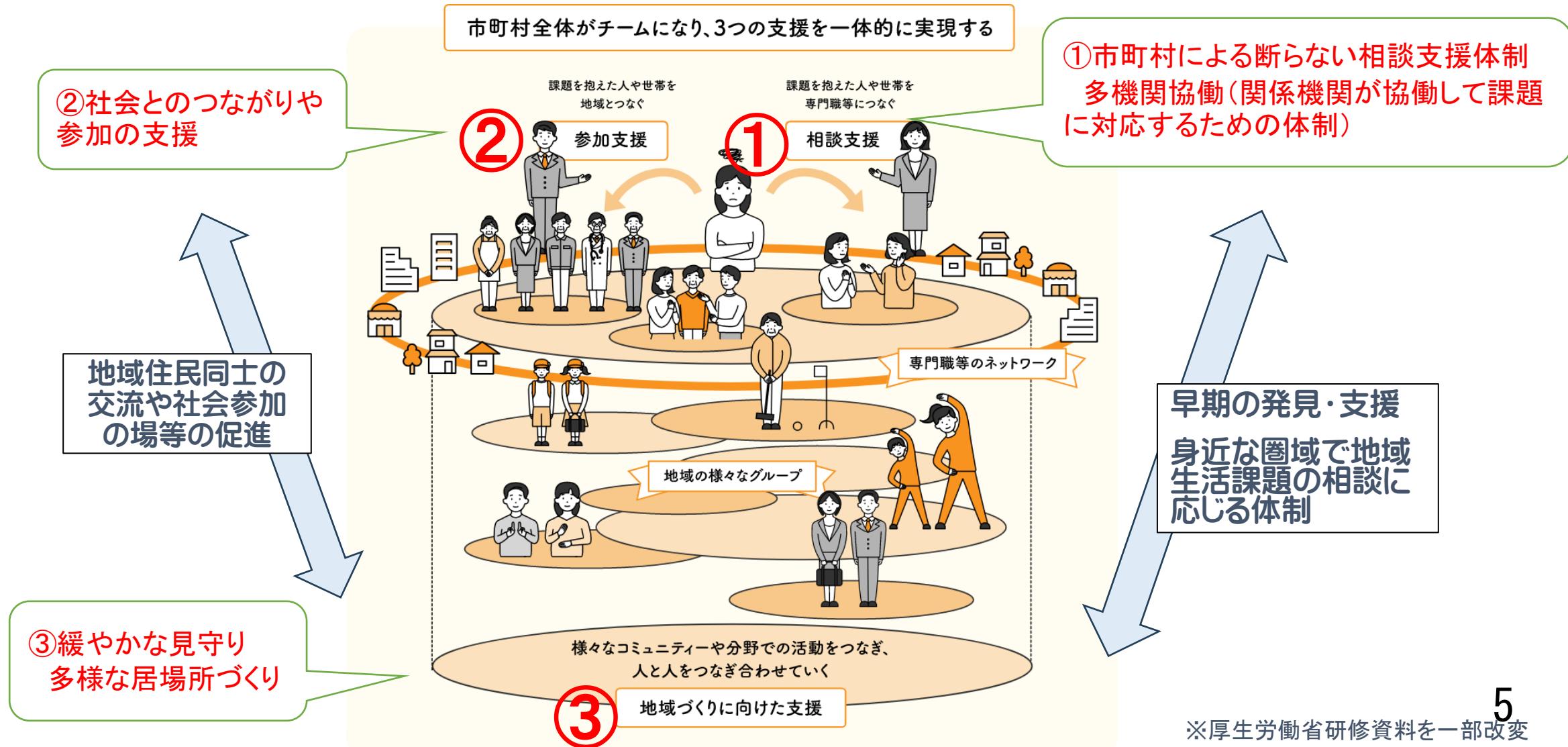
# 地域共生社会の実現に向けた取り組み

## 地域共生社会

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」を越えて多様な主体が参画し、世代や分野を超えて繋がることで、地域をともに創っていく社会。



# 重層的支援体制整備事業の3つの柱





「お互いさんの  
心と絆ではぐくむ  
心豊かなまち 京田辺」

をめざして

令和9年度からの本格実施に向けて始動します。

～京田辺市重層的支援体制整備事業～  
京田辺たなごころプロジェクト

# ①包括的相談支援事業

どの窓口からでも適切な相談機関につながるしくみ

対象者の属性にとらわれない包括的な相談支援

既存の相談窓口を位置付け。 ⇒ 「どこでもストップ！」  
「ワンストップ窓口」ができるわけでない

単一の相談機関では解決が難しい課題への対応

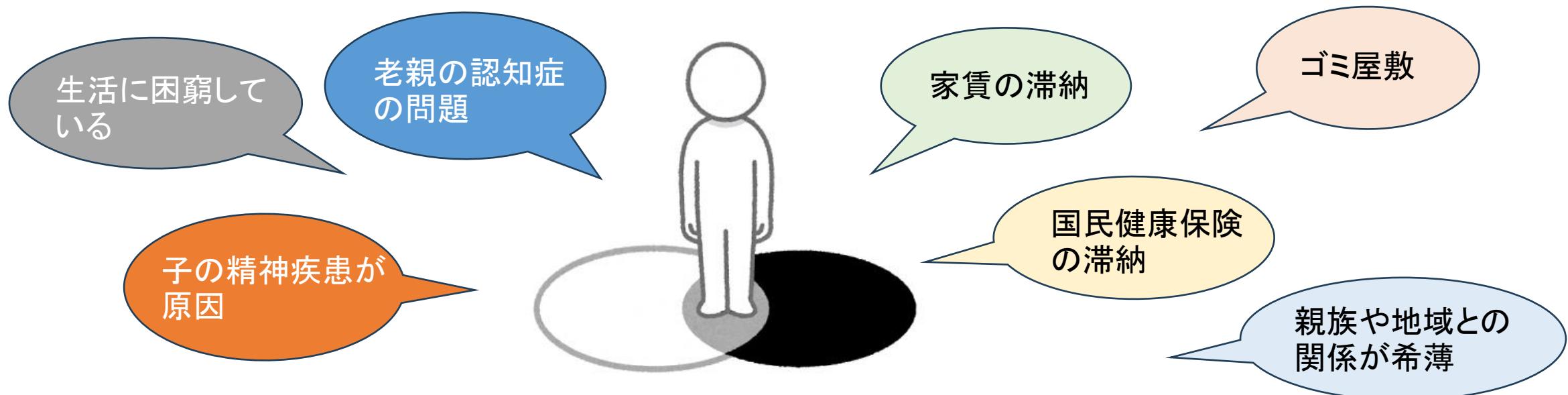
組織の縦割りを越えることで課題解決機能が充実

多機関協働の支援体制の構築

⇒ それぞれでは解決できない課題を協力して解決していくための仕組み(多機関協働)  
と話し合う場(重層的支援会議・支援会議)を設置します。

# ～これまで～

関係機関がそれぞれの方針で対応し、バラバラにケースを受けとめる。関わるところが多くなると、何かことが起きる度に情報が錯綜する。今ある問題に対応するだけの『もぐらたたき』の状態に。



全体の支援経過が把握できないため、いつの間にか網の目からこぼれ落ちる。  
「あの家はあそこが対応していたんじゃなかつたっけ？」

# ～これからは～

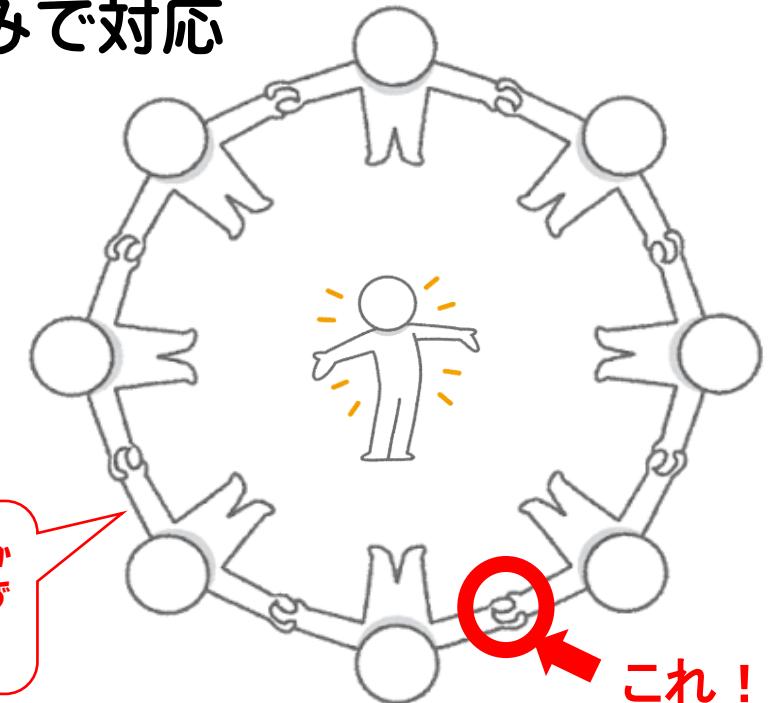
- ・基本的に今やっていることは変わりません。それぞれの機関で解決できる場合は、それで解決。つなぎ先が明確な場合は、そちらに繋ぐ。
- ・複合課題等で継続的支援等が必要な場合は重層の仕組みで対応

※重層的支援＝相談の投げ込み先ではない。各相談機関での対応終結ではない。

## 多機関協働の支援体制の構築

⇒ それでは解決できない課題を協力して解決していくための  
仕組み(多機関協働)と話し合う場(重層的支援会議・支援会議)  
を設置します。

『どこに相談していいか分からぬ』ようなケースもまずは一旦受け止める！



キーワードは「連携」「協働」です。

## ②地域づくり・参加支援

誰もが地域社会の中で出番があり、役割を発揮できる場をつくるために、「地域×多分野」協働による地域づくりを展開＝地域とともに創る社会の実現。

☆ 分野や領域を超えた「出会い」「つながり」の場。

- ・多世代型多様な人が交流できる居場所。
- ・企業や農業など、福祉の枠を超えた多分野の出会いの場。

☆ 新たなつながりの中から更なる展開を生む場。

- ・動機やアイデアを与えてくれる場。
- ・分野・領域を越えたつながりの中から生まれる新たな地域の担い手や社会資源への展開。

**点と点をつなぐ場 = プラットフォーム**

多様な対話の場や出会いの機会をつくることが必要！

# ～プラットフォームについて～

プラットフォームの展開により、地域の中の縦割りをなくし、それぞれが役割を発揮しながらつながり(重なり合う部分)を増やす機会の創出する。

## ▷ 既存の地域づくり事業を活用した事業の展開

### ～例：絆ネットワーク事業～

- ・居場所づくりや見守り活動など地域課題解決のための取組支援
- ・ふれあいワークショップや地域づくりフォーラムなど地域づくりの支援
- ・まちづくりサポーター企業の啓発と企業活動と福祉をつなげる研修会

既存の取組を充実・拡大・強化し、つながりが広がるしくみをつくる。



# 「メリットがあるのか？」

新しい相談機関を設けたり、新しいことを行うことが目的ではありません。  
既存の支援機関等の機能や専門性を活かし、チームとして連携を強めながら、市全体の支援体制(チーム京田辺)をつくることが目的です。

- 縦割りの「支援のしづらさ」を改善する。
- 1つの機関や部署が全てを抱え込む必要がなく、支援者の負担を軽減する。
- 連携やつながりによって、早期の発見や対応につながる。など…

相談の「入口」から地域で安心して暮しつづける「出口」までをつなぐ、これらの取り組みの総称が「たなごごろプロジェクト」です。

令和9年度の実施に向けて、7年度・8年度は目線合わせに重点を置き、一体的な取り組みを実現するための仕組みの検討とプレ実施を予定しています。（移行期間）

# 重層的支援体制整備事業の一体的な実施に向けて ～京田辺たなごころプロジェクト～

## 『たなごころ』とは？

手のひら・掌のこと。

手のひらには心が宿るとされ、

手のひらと心には深い結びつきがある。

手に関するさまざまな言葉…

手段、手法、手際、手配、手続など、各分野・各窓口での日々の業務や取り組みの中にも見られる。



# 重層的支援体制整備事業の一体的な実施に向けて ～京田辺たなごころプロジェクト～



---

それぞれの専門領域には『得手・不得手』があり、一つの相談窓口で解決できない複合的な課題を抱えたケースには、部門・分野の壁を越えて手を取り合い、協力して取り組む必要がある。

---

考え方や勝手の違いに戸惑うこともあるが、それぞれの立場や役割・機能を理解した上で、あの手この手で、より良い支援を目指していく。手をつないで同じゴールを目指す。

---

奇跡を起こす魔法の一手は出ないかもしれません、うまくいったら、握手や拍手でお互いをねぎらいましょう！